

株式会社ジェイコムイースト 群馬局 2015 年度 放送番組審議会 議事録

【日 時】 2015 年 11 月 20 日(金) 午前 10 時 30 分～12 時 00 分

【場 所】 株式会社ジェイコムイースト 群馬局 2 階会議室

<放送番組審議会委員>

ご出席

石井 學様 大竹 良明様 串田 洋介様 長塩 英雄様 深澤 るみ様
竹中 三郎様 小和瀬 健様代理 中島慎太郎様

ご欠席 (委任状提出)

前田 勇様 鈴木 繁男様 時澤 常雄様

ご欠席

新井 政信様

放送事業者側から J:COM 新サービスの報告及び J:COM チャンネルの報告があった。

【質疑応答・意見交換】(石井会長による進行)

1. 『ホームタウンぐんまにあ』に関する審議

委員 催し運営サイドでものを見てしまいがちだが、主催している団体や人は、どんな思いで企画しているのかを更に突っ込んで伝えたらもっと良いと思う。番組を通して視ると新たな知識も得られ、上手くまとめている面白い。催しの紹介は、市民のインタビューが多く、単調な部分も感じることもある。

事業者 予算面も考慮しながら、レポーター体験など構成も考えて制作していく。

委員 子供たちとトップアスリートとの触れ合いイベントを取り上げたことは、教育だけでなくあらゆる意味合いで共感できる構成だった。前橋青年会議所の活動と J:COM の取り組み姿勢が伝わり、今後もこのような番組を放送してほしい。

事業者 取材は旧市街のイベントの紹介が偏りがちなので、地域プロデューサーと協力して情報を集めながら紹介していく。

委員 地域に密着した番組は、昨年よりも良くなっていると感じている。元プロ選手と子供たちのスポーツフェスティバルは感動した。これからも夢を持たせてくれるイベントを番組にして欲しいし、とても期待している。

委員 ネタを探すのは大変なことだと思うが、「イベントがありました」とだけ伝えるのではなく、そのイベントの意義とか背景が判る構成にしているのが良い。地域密着の10や11チャンネルの番組制作と放映を維持するにはそれなりにコストがかかっているはず。未だ視られないサービスエリアもあるが、地元の情報を大切にしている番組制作を継続しているのはJ:COMの企業努力だと感じている。

事業者 NHK や民放と違う地域密着のケーブルテレビならではという「どローカル」路線で、更に細かいところまで取材をしていきたい。特番の「高崎まつり」は祭り特集として74局あるJ:COMのネットワークでも放送した。

委員 多数の県民参加番組として最適と思うが、番組のPRが不足しているのも感じる。今後も市民参加番組を積極的に制作し、地域に貢献してほしい。アスリートも大切だが、普通の市民の顔を多くクローズアップしながら視聴者の増加を図ってほしい。

2. 『高崎まつり』に関する審議

委員 隣町に住んでいながら「高崎まつり」は花火や出店など表面的な部分だけしか知らなかったが、来年は子供たちをどう参加させようかと考えてみたり、歴史や魅力的な部分がみえて得るものが多い番組だった。

委員 この祭りに40年携わっている立場から、子どもが喜ぶ笑顔が沢山描かれてとても嬉しかった。番組を視た人は来年も頑張ろうと思うだろう。欲を言えば平等な扱いをする取材と放送をお願いしたい。

委員 歴史と伝統がしっかり生きついている高崎の庶民の熱き思いが紹介されていた。インドネシアの青年たちのインタビューも活かして良かった。

委員 「祭りの山車や神輿、踊りがありました」だけでなく、この祭りを支えている裏方やボランティア、ゴミ拾いなど様々な角度から紹介しているのが良かった。

委員 子ども目線で捉えていてとても嬉しい。山車の仕組みや祭りの歴史の深掘りをするとうれしくなる。2日間ある祭りの催しの数は多岐に渡っている為、総て視られる人は少ない。限られた時間

であるのは判るが、総ての団体や催しを撮って再発信すると嬉しい。

委員 高崎生まれの人は、番組を見て郷愁を感じ、なつかしく思うのではないか。

来年は参加しようと思う市民もおられると思う。祭りの非日常を表現しており、明日からの元気を与えた取り上げ方が良かった。但し、レポーターが少々張り切りすぎ、露出が多いかと印象を持った。

以上